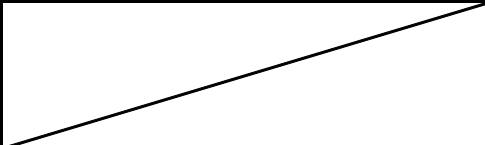


県庁DXについての意見

意 見	行政改革大綱
<p>(DX戦略で目指す方向性)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 県がDX戦略で目指そうとしているものは何か。県職員の働き方改革や事務の効率化は当然だが、県民に対してDXを使って利便性を向上するとか、成果を打ち出すといったこともあると思うが、その部分が見えない。県は県民と即つながることであり、結果が見えるような形が取れるとよい。 ・ 県民と即つながる分野として、行政手続きや公金収納の電子化、オンライン会議に取り組んでいただきたい。また、SNSなどデジタルでの情報発信を行うなどにより、県民への広報を強化していただきたい。 	<p>柱 I - 1 行政サービスのデジタル化の推進 P6~7 (オンライン化の推進 等)</p>
<p>(データ管理)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ デジタル化を進めるには、データの整理と定義付けが大事。まずはデータでしっかりと管理するところから始めていただきたい。 ・ 県が独自に集めている統計は少ないのではないか。国が音頭を取って資料を集めているものが多く、国に対して要望していくしかない。各省庁がそれぞれ集めているデータを県として接点をついて、より使い勝手の良いものをどう作っていくか、何か具体的な提言をしないと、県が何をやっているかよくわからない。 ・ 県は中間団体で、県だけでデータが完結しないし、県を通っていただけというケースも多い。デジタル化が進むと、国と市町村にはデータが残るが県には残らないというケースも増えていくので、各県が潜在的に頑張らないといけない。 	<p>柱 I - 1 行政サービスのデジタル化の推進 P7 (行政情報の利活用の推進)</p> <p>柱 IV - 5 行政情報の効果的な提供と県民ニーズの把握 P29 (効果的な情報提供と県民ニーズの的確な把握)</p>
<p>(オープンデータの活用)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ どのデータをどのレベルで共有するのか、データの位置付けをしっかりとっておかないといけない。 ・ 県のオープンデータサイトはどこに何があるのか分かりにくく、使いにくい。オープンデータが少なく、更新が数年前で止まっているものもある。調査ごとにカテゴリー化するなど、データを見つけやすくし、しっかりと更新いただきたい。 ・ 県の別のサイトにデータが掲載されているとそれを探しに行かないといけないので、オープンデータサイトに全て入れ込んでいただきたい。 ・ 庁内各課が作成しているデータを共有できる形でオープンにしていくという、オープンデータについての抜本的な考え方や方針を考え、データの共有というものをやっていただきたい。 ・ オープンデータ化にあたり、PDF化したり、Excelデータ化しても、手間がかかって加工できないので使えない。これは国全体で見直さないといけない。 	
<p>(AIの活用)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ デジタル化は世の中の大変動を生み出すものであり、民間は動き始めている。AIをどんどん活用するような世界を県庁の中に作らないといけない。AIの使い方を広めて、県庁職員がたくさん使っているといったレベル感を目指していただき、県庁外にも広げていただきたい。 ・ 生成AIなどは、データに容易にアクセスし、整理できる時代になっていくが、活用できるデータがないと意味がないので、データの整理・位置付けは重要。 	<p>柱 I - 2 デジタル技術の活用による業務の効率化 P8~9 (AI・RPA等のデジタル技術の活用、デジタル・ワークスタイルの実現)</p>

意見	行政改革大綱
<p>(教育分野)</p> <ul style="list-style-type: none"> デジタル化の中で、教育事務所の仕事をより電算化してやりやすいものに変えていくというのは非常に重要。 	<p>柱Ⅰ-2 デジタル技術の活用による業務の効率化 P8~9(業務システムの効率化、AI・RPA等のデジタル技術の活用)</p>
<p>(土木分野)</p> <ul style="list-style-type: none"> 県土整備事務所などの公共部門での測量のあり方等も含め、民間でのデジタル化が進んでおり、人手不足の中で契約行為をどのようにしていくのか、どの範囲がいいかといったことを検討することも県のデジタル化にとって重要。事務仕事の整理がされておらず、技術職員が契約事務等の業務に追われ、全くやりがいを感じられていない。人員不足が深刻で、技術職の採用が難しくなっており、改善が必要。予算や契約システムをデジタル化すればかなり変わってくる。 	<p>柱Ⅰ-2 デジタル技術の活用による業務の効率化 P8~9(業務システムの効率化)</p>
<p>(全庁横断的な取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> 県行政は縦割り行政であり、各部門のDXをその部門だけで行っている。DXを進めるにあたっては、横串を通したような仕組みを構築していきたい。 県庁DXを進めることにより、コミュニケーションを取りやすい、働きやすい職場環境を実現していきたい。 	<p>柱Ⅰ-2 デジタル技術の活用による業務の効率化 P8(業務システムの効率化 等)</p>
<p>(市町村との連携)</p> <ul style="list-style-type: none"> 市町村への支援が重要であり、市町村のシステムに関して、県が代替に整備する、または、代わりに何かやっていくということができないか。市町村支援の部分を具体的にわかりやすく打ち出すこと。 市町村のデジタルへの取組を県がリードするぐらいに進めていきたい。 市町村においては、「デジタル人材の確保と育成」が課題であり、県の支援が必要。 	<p>柱Ⅳ-3 市町村との連携強化 P28(市町村との連携)</p>

(参考意見)

<ul style="list-style-type: none"> 民間企業との接点から、ローカル5Gの世界で、県と企業が一緒になって何かできないか。県が見本となってデジタル化を進め、中小企業を引っ張っていくことを考えないといけない。 	
---	---